

元興寺 1300 年の歴史

元興寺の歴史は、仏教の伝来、導入、否定、再興など、日本における仏教の発展の歴史と重なる部分が多い。6 世紀末の創建以来、さまざまな形で存在してきたが、日本初の本格的な仏教寺院としての遺産は、現在も途切れることなく受け継がれている。その文化的価値が認められ、1998 年にユネスコの「古都奈良の文化財」の一つに登録された。

飛鳥寺と仏教の伝来

元興寺の前身である法興寺は、当時、朝廷や政権中枢が置かれていた飛鳥に創建された。588 年の法興寺の創建は、朝廷が仏教を正式に採用したことを意味するもので、数十年にわたる葛藤の末に到達したものである。747 年に編纂された元興寺の創建記録によると、538 年に百済から使者がやってきて、仏教の文献や仏像が宮廷に持ち込まれたとある。この異国の宗教を受け入れるか否かは、天皇の参謀たちの間で激論が交わされた。物部氏、中臣氏は、新宗教の導入が土着の神々への信仰を乱し、自分たちの権力の基盤を揺るがすと考え、強く反対した。蘇我稲目（570 年没）は、仏教の良さを見極めるために、仏教の修行を始めることに同意した。

この決定から、数十年にわたる両者の争いと分裂が始まった。稲目は飛鳥の地に小さな私寺を建てたが、まもなく疫病が流行した。稲目の寺は疫病の原因とされ、中臣（なかとみ）、物部（ものべ）らの働きかけで朝廷から寺を焼き払われてしまった。しかし、蘇我氏は仏教を信仰し続け、両者の緊張は武力衝突に発展した。587 年、蘇我氏は物部氏、中臣氏の追放に成功し、飛鳥に初めて勅願寺を建立した。679 年、飛鳥寺は「法興寺」と呼ばれるようになった。その後 100 年以上にわたって、法相宗と三論宗という大乘仏教の二大宗派が法興寺を經由して日本に伝わり、一躍有名になった。

奈良の大寺院となった元興寺

仏教は、朝廷の支援によって急速に広まった。710 年に奈良に都が置かれると、法興寺は奈良七大寺院の一つとして移された。718 年に遷都が完了し、「元興寺」と呼ばれるようになった。朝廷から約 2,000 ヘクタールの寺領を与えられ、その後数十年にわたり繁栄した。

浄土真宗による再興

794 年、都は京都に移ったが、元興寺は奈良に留まり、宮廷の庇護を受けることはなかった。その後、仏教は徐々に拡大し、都の周辺には有力な寺院が数多く建立された。しかし、奈良の他の寺院との競争にさらされ、衰退の一途をたどった。

11 世紀後半になると、浄土真宗への関心が高まり、寺の支援は再び盛んになった。地元の商人や労働者、農民までが智光曼荼羅を見るために集まり、それを安置するために極楽堂が建立された。また、極楽堂は富裕層や庶民の間で、葬儀や念仏を唱えるために利用されるようになった。その結果、元興寺は数百年にわたる第二の繁栄期を迎えた。空海（774-835）や聖徳太子（572-622）など、仏教の聖人への信仰も盛んになった。聖徳太子像、弘法大師空海像、阿弥陀如来

像など、元興寺の優れた仏像や遺品はこの時期に多く寄進された。

15 世紀に入って、東大寺から現在の元興寺東門を北東に移し、境内に極楽堂と禅室を補完する形で太子堂を建立した。

徳川幕府前の激動の時代

15 世紀、農民による武装蜂起が頻発するようになった。このような反乱は、多額の借金を背負った農民が起こしたもので、政府から援助を受けていた寺院が攻撃対象となることが多かった。1451 年、農民が興福寺周辺の貴族の屋敷に放火し、その火が元興寺の境内に燃え移り、伽藍の大部分が焼失した。

その後、1 世紀半ほどは混乱と内乱が続いたが、17 世紀に入ると社会はほぼ安定した。1602 年、元興寺は徳川幕府から朱印状を授与され、租税が免除されることになった。その後、観音堂や巨大な五重塔を目当てに参詣者が増え、元興寺は繁栄していった。しかし、1859 年の二度目の大火で、これらの建物は焼失してしまった。この頃から幕府の体制も崩れ始め、1868 年、ついに幕府は崩壊してしまった。

明治維新後の復興

1868 年、外国人排斥の波が押し寄せる中、天皇は復権を果たした。日本では何世紀も前から仏教が信仰されていたが、異国の宗教として否定された。寺院や仏像など、数え切れないほどの仏具が破壊され、放置された。1873 年には、火災で焼失しなかった元興寺は空地となり、廃墟と化した。しかし、1943 年、辻村泰円（1919-1978）という僧が、荒廃した伽藍の修復に着手し、寺は救われた。この時点では、元興寺の由来は一般には知られておらず、辻村も日本最古の寺院を再建しているとは思っていなかった。辻村は最終的に、元興寺が重要な文化遺産であることを認識し、国から資金を得ることができた。

この修理の際に、何十万点という貴重な文化財が発見され、その研究・保存のために元興寺文化財研究所が設立された。辻村泰円をはじめとする多くの人々の努力によって、飛鳥の地にあった歴史的な寺院の遺産は、今もなお受け継がれているのである。